

CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)一宮市今伊勢物件	階数	地上1階
建設地	宮城県一宮市今伊勢町大字新田1丁目1番1号	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	1,380 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年4月 予定	評価の実施日	2025年10月1日
敷地面積	25,746 m ²	作成者	株式会社双葉デザイン一級建築士事務所矢崎 謙
建築面積	5,525 m ²	確認日	2025年10月1日
延床面積	5,450 m ²	確認者	株式会社双葉デザイン一級建築士事務所矢崎 謙

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 88%</p> <p>③上記+②以外の 88%</p> <p>④上記+ 88%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Qのスコア = 2.5		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.4
LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.5 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 重点項目	
①地球温暖化への配慮 3.4 	③敷地内の緑化 1.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 6.6 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 4.9 %
②資源の有効活用 3.1 	④地域材の活用 1.0 <外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3-1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
 LR-2-2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3-1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)一宮市今伊勢物件

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境					0.40			3.1
1 音環境				0.1	3.0	0.15		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	3.0	
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能					3.0	1.00	3.0	
2 界壁遮音性能					3.0		3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0		3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0		3.0	
1.3 吸音					3.0	0.20	3.0	
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35		3.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50		
1 室温				3.0	3.0	0.38	3.0	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25	3.0	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20	3.0	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30	3.0	
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25		3.0
3.1 昼光利用								
1 昼光率				3.0			3.0	
2 方位別開口							3.0	
3 昼光利用設備				3.0			3.0	
3.2 グレア対策								
1 昼光制御				5.0	3.0		3.0	
3.3 照度				3.0			3.0	
3.4 照明制御				3.0	3.0	1.00	3.0	
4 空気質環境				0.2	3.5	0.25		3.5
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50		
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	3.0	4.0	1.00	3.0	
4.2 換気				0.3	3.0	0.30		
1 換気量				3.0	3.0	0.50	3.0	
2 自然換気性能				3.0			3.0	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50	3.0	
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20		
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50		
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50		
Q2 サービス性能						0.30		2.9
1 機能性				0.4	2.4	0.40		2.4
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40		
1 広さ・収納性				3.0	3.0		3.0	
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0		3.0	
3 バリアフリー計画			独自	3.0	3.0	1.00		
1.2 心理性・快適性				0.3	1.0	0.30		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0		3.0	
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0			
3 内装計画				3.0	1.0	1.00		
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33		
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②		3.0	0.23		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					5.0	0.15		
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23		
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20		
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20		
3 電気設備			②	3.0	3.0	0.20		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20		

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					3.0	-		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.089580	3.0	5.0	1.00		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	1.4
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			1.0	0.40		-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.75	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.82	3.0	2.9	0.30		-	-	2.9
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-		-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.2
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、節水型便器を使用。	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63		-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	解体時のリサイクル対策。	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22		-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡系の断熱材の使用無し。		5.0	0.50		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率88%		3.4	0.33		-	-	3.4
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33		-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器不使用。		5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自	自転車、車の利用に配慮した計画としている。		4.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自			3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自			-	-		-	-	
3 悪臭					-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害の影響を配慮した計画としている。		4.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート
(仮称)一宮市今伊勢物件

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:6.6%/建物緑化:4.9%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)一宮市今伊勢物件

計画上の配慮事項	
総合	適切な厚みの断熱材及び高効率機器を採用することで、外皮及び一次エネルギーの基準を満たす建築物としている。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。
Q2 サービス性能	給水・排水管の対応年数の長いものを使用している。 屋内空間を広く取り、自由度の高い計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし
LR1 エネルギー	BPI _m =0.75、BEI _m =0.82を達成している。
LR2 資源・マテリアル	節水コマ、節水型便器を使用している。 解体時のリサイクルを推進する対策をしている。 発泡系の断熱材を使用していない。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO ₂ 排出率88%を達成している。 燃焼機器を使用していない。 自転車、車の利用に配慮した計画としている。 光害の影響を配慮した計画としている。
その他	